

三重県さくらねこTNRプロジェクト 実施報告書



主 催：公益財団法人どうぶつ基金、三重県
申請者：三重県動物愛護推進センター あすまいる
会 場：三重県動物愛護推進センター あすまいる
期 間：平成29年8月21～23日（手術日）

三重県の現状

東員町において、飼い主のいない猫が10匹以上定着しており、生活環境に支障をきたしているとして地元自治会や東員町から相談を受けていた。このことから、平成29年6月15日から16日にどうぶつ基金の支援を受け、同地区に定着している飼い主のいない猫の11匹の不妊・去勢手術等を実施したが、手術等を行っていない飼い主のいない猫の定着が確認されている。

また、6月15日、16日に実施した出張によるさくらねこ不妊手術事業では県内45地区に定着する飼い主のいない猫（193匹）の不妊・去勢手術等を実施していただいたが、45地区中、38地区においては手術等未実施の飼い主に猫の定着が確認されており、その数は少なくとも推定220匹となる。（申請書より）

三重県の猫の殺処分数

猫										
三 重 県	引取数				処分数					
	飼い主から 成熟 固体	飼い主から 幼齢 固体	所有者不明		返還数	返還数の うち幼齢 固体	譲渡数の うち幼齢 固体	譲渡数	譲渡数の うち幼齢 固体	殺処分数 のうち幼 齢固体
	成熟固体	幼齢固体	成熟固体	幼齢固体						
	77	95	45	1062	8	5	3	252	0	1022

三重県では平成27年度1年間で1022匹の猫の殺処分を行っている。殺処分のうち、8.5割～9割は離乳前の幼齢個体である。不妊手術によってこれだけの殺処분을予防することができる地域である（注：表中の殺処分数は幼齢個体の分別を行っていないために、0と表示されている）

対象場所の状況（報告書より）

本年5月28日に、三重県の動物愛護管理推進事業の拠点となる三重県動物愛護推進センター「あすまいる」が開所したが、飼い主のいない猫の減少について、取り組みのひとつとして掲げている。

このことから、平成29年6月15日、16日にどうぶつ基金の支援を受けながら県内に定着している飼い主のいない猫193匹の不妊・去勢手術等を実施したが、支援地区（38地区）において、手術等未実施の飼い主のいない猫が少なくとも約220匹確認されている。

猫の繁殖能力の高さを鑑みれば、この取り組みについては一過性のものではなく継続して行う必要性があることから、本申請に至った。

目的

- (1) 保健所への引取り、殺処分の回避
 - (2) 猫の糞尿等による生活環境が損なわれる事態の回避
 - (3) 「地域猫活動」又は「T N R 活動」の周知と理解
- （申請書より）



各地区の手術頭数内訳（報告書より）

事業を実施するにあたり、県内の各保健所に対して飼い主のいない猫の定着状況の調査を行い、各保健所の手術数を決定したが、下表のとおり手術数の変更が生じた。

また、当初の計画では、飼い主のいない猫の不妊・去勢手術等の実施日は8月22日、23日の2日間としていたが、どうぶつ基金と調整し8月21日から手術等（20匹）を実施した。その結果、8月23日（最終日）は手術予定数を上回ったにも関わらず16時頃には搬入された飼い主のいない猫の手術等を終了することができた。

手術日	保健所名	オス	メス	実施数	メスのうち 妊娠	堕胎数	手術前 死亡	手術予定数
8月21日	尾鷲	10	10	2	3	10	0	30
	小計	10	10	2	3	10	0	30
8月22日	尾鷲	5	4	9	3	16	0	-
	四日市市	1	6	7	0	0	0	10
	伊賀	9	13	22	1	4	0	20
	鈴鹿	11	9	20	0	0	0	20
	津	7	13	20	0	0	0	20
	熊野	5	7	12	1	4	0	-
	小計	38	52	90	5	24	0	70
8月23日	熊野	26	40	66	5	22	0	70
	桑名	5	11	16	2	7	0	15
	松阪	10	6	16	0	0	0	15
	小計	41	57	98	7	29	0	100
	合計	89	119	208	15	63	0	200

手術数

	オス	メス	耳カットのみ	計
8月21日	10	10	0	20
8月22日	38	52	0	90
8月23日	41	57	0	98
計	89	119	0	208

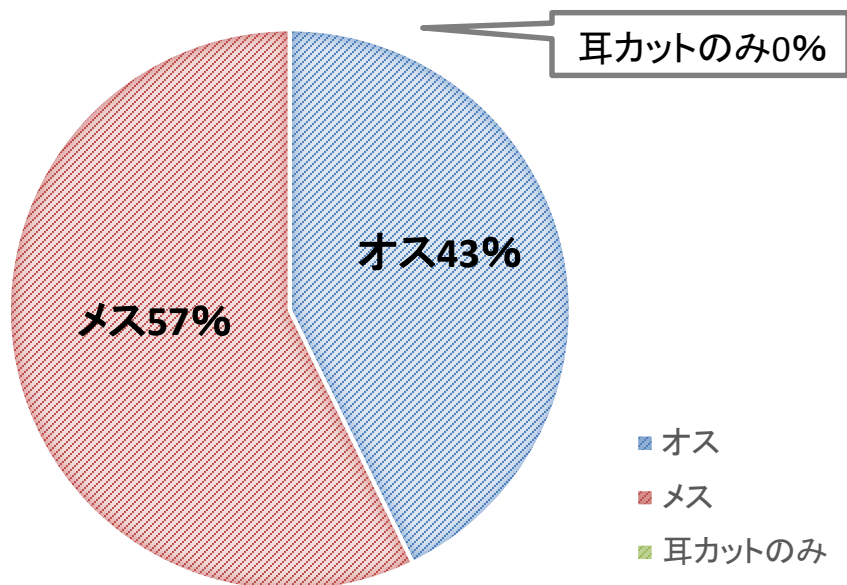
処置内容

不妊去勢手術、耳先のV字カット（さくら耳）、3種混合ワクチン
ノミ・ダニ・回虫の駆除薬（レボリューション）、目薬、補液等

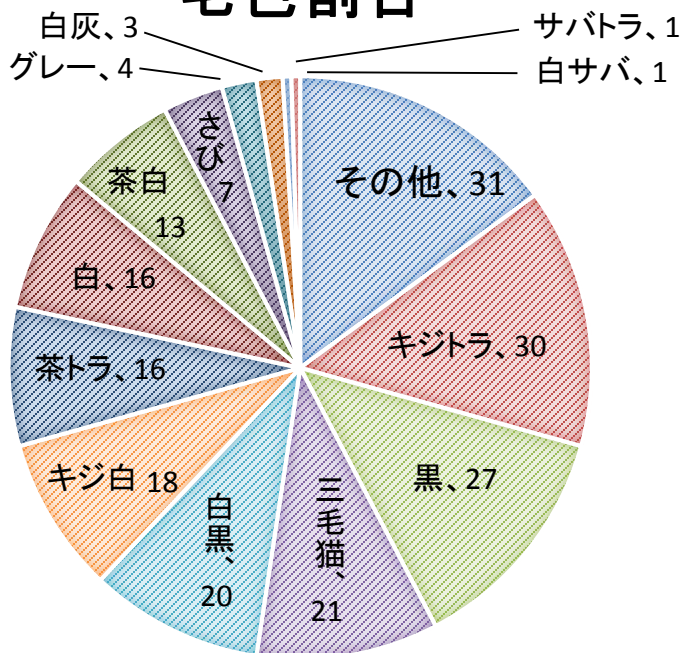
捕獲器・ケージ使用台数

所持者	(公財)三重 県動物管理 事務所	あすまいる	保健所	市町	ボランティア等
捕獲器	21	74	14	3	21
収容コン テナ	46	0	16	0	3

オスメス割合



毛色割合



どうぶつ基金：山口、足立

あすまいる：久米（所長）、千田、岩城

他行政獣医師

ボランティア参加：辻（三重県伊賀獣医師会支部長）

大門獣医師（Mobile VET Office）



●山口獣医師



●足立獣医師



●辻獣医師（三重獣医師会伊賀支部長）



●大門獣医師（Mobile VET Office）

日付	県職員	市町職員	(公財)三重 県動物管理事 務所職員	動物愛護 ボランティア	総数
8/21	動物愛護推進 センター				
人数	4	0	1	0	5
8/22	健康福祉部、 動物愛護推進 センター、津保 健所、鈴鹿保 健所、尾鷲保 健所、 伊賀保健所	四日市市 津市 尾鷲市 紀北町			
人数	10	5	3	1	19
8/23	健康福祉部 動物愛護推進 センター、桑名 保健所、津保 健所、松阪保 健所、熊野保 健所 奈良県職員	津市 紀宝町			
人数	11	4	6	2	23



手術会場の様子

doubutukikin



●手術前のミーティング風景



●タグ付け



●手術待ちの猫たち



●手術前のお腹の毛刈り



●手術



デジタル毎日（8月21日）



そへなんだ！

野良猫の不妊手術 殺処分ゼロ目指して 活動広がり県内の全保健所へ /三重

毎日新聞 2017年8月21日 地方版

社会一般 動物 三重県 ライフ



手術を受けさせるため、三重県内各地で捕獲された野良猫＝ひだまりにゃんに提供

県内の野良猫を対象にした不妊の出張手術が、5月にオープンした県動物愛護推進センター「あすまいる」（津市森町）で行われた。出張手術は、各都市の野良猫救済団体「ひだまりにゃんこ」の高松智子代表（52）の働きかけで2014年にスタート。あすまいるの開設も追い風となり、今後は数ヶ月に一度のペースで実施する計画で、今月22、23両日にも行う予定だ。【広瀬晃子】

◆不幸な命を救え

県内での出張手術は、県と公益財団法人「どうぶつ基金」（兵庫県芦屋市）が協力して始まった。同基金では野良猫の繁殖を防ぐ「TNR先行型地域猫活動」として全国で手術を展開。TNRは「Trap」「Neuter」「Return」の略で、捕獲した野良猫に避妊・去勢手術をして元の場所に戻す取り組みを指す。

毎日新聞（8月22日）



野良猫の不妊に「追い風」

出張手術が拡大中

野良猫を対象にした不妊の出張手術が、県動物愛護推進センター「あすまいる」（津市森町）の月の開設も追い風となり、県内各地に広がっている。出張手術は、各都市の野良猫救済団体「ひだまりにゃんこ」の高松智子代表（52）の働きかけで2014年にスタート。あすまいるの開設も追い風となり、今後は数ヶ月に一度のペースで実施する計画で、今月22、23両日にも行う予定だ。【広瀬晃子】

殺処分ゼロへ救済団体など連携



県内での出張手術は、県と公益財団法人「どうぶつ基金」（兵庫県芦屋市）が協力して始まった。同基金では野良猫の繁殖を防ぐ「TNR先行型地域猫活動」として全国で手術を展開。TNRは「Trap」「Neuter」「Return」の略で、捕獲した野良猫に避妊・去勢手術をして元の場所に戻す取り組みを指す。

伊勢新聞

[illegible]

三重タイタ

県と「くらね」でN
R」に取り組む（公財）
どうぶつ基金（佐上邦久
理事長）は8月22日（火）
と23日（水）、津市森町
にある三重県動物愛護館



この取り組みは6月中旬に続く2回目、10月内に3回目を予定している。

同セミナーでは問題のない犬猫について誤謬を訂正しており、8月14日現在の実績は犬29匹、猫72匹となっている。

「成果を上げている。」

三重県においては、過去にどうぶつ基金による出張手術の支援（3回）をしていただき、そのうち1回については、本年の6月に三重県動物愛護推進センターで実施している。

前回と同様、出張手術までに至る企画・準備・関係者との調整を三重県動物愛護推進センターが現地での捕獲や術後の放猫（リターン）を各保健所の担当者や地元住民等が行うといった役割分担をしたことで、円滑に事業を行うことができた。また、三重県動物愛護推進センター内での出張手術も2回目であったこと、手際よく作業を行うことができた。

更に、事業実施に関し報道資料提供やホームページへの掲載を行ったことで、地域住民からの本事業に関する問い合わせも増加傾向にある。

（自己評価書より）



- ①支援地区内での猫の引取り数ゼロを目指す。
- ②伊賀地区を中心として実施してきた取組を、三重県全体に拡充するとともに継続させる。
- ③三重県内で「地域猫活動」又は「TNR活動」を推進していくため、広報機能を充実させこの取組の周知と理解を求めていく。
- ④また、行政だけの取組だけでなく地元住民、動物愛護ボランティア団体などと連携しながら実践していく。

現時点で、手術頭未実施の猫が県内の保健所が把握しているだけで少なくとも約500匹以上定着している。

猫の繁殖力の高さを鑑みると、今回の取組を継続して行っていく必要があるもので、本年3回目のどうぶつ基金の事業の申請を行うとともに中長期的に事業を継続して実施できるようどうぶつ基金と当所で「さくらねこ不妊協働事業に関する協定書」の締結を目指す予定でいるので、引き続き尽力していく所存である。

(報告書より抜粋)

今回は、行政の皆様との連携作業も今まで以上にスムーズに進みました。今後はさらに連携を強化し殺処分ゼロへのスピードを加速したいと思います。

どうぶつ基金 理事長 佐上邦久



公益財団法人どうぶつ基金

三重県